

# 実質化された人・農地プラン（令和5年度見直し）

市町村名	対象地区名／地域名	当初作成年月	直近の更新年月日
青森市	野沢 (銀・樽沢・郷山前・吉野田・下石川)	平成25年1月	令和6年3月27日

## 1. 対象地区の現状

当該地域は、認定農業者による農用地の効率的な利用が図られており、水田では一部が基盤整備され水稲が作付けされているほか、水田以外では主に果樹が作付けされており、若手農業者や新規就農者によるりんご栽培が行われている。地域では農業者の高齢化が進んでおり、後継者未定の農業者の耕作面積は多くなっているが、水稲作業受託組織やりんご共同防除組合が組織され、地域が一体となって農作業を行っている。地域には、畑が低く水はけが悪い箇所、農道が狭く車のすれ違いができない箇所、農道の樹木管理がされていない箇所及び農地所有者不明の農地がみられ、このような条件の悪い農地や地域においては、後継者や作業員の減少、地域の農業者同士の会合が減少するなど、農業者同士のつながりが希薄になりつつある。野菜と果樹の農地の住み分けがされておらず、農薬のドリフトが懸念される。

① 地域内の耕地面積	1,285.0 ha
② アンケート調査等に回答した地域内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	709.9 ha
③ 地域内における50歳以上の農業者の耕作面積の合計	569.4 ha
1) うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	261.0 ha
2) うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	9.4 ha
④ 地域内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	233.7 ha

## 2. 対象地区の課題

課 題	概 要
① 基盤整備に関する課題	大型機械が通行可能な通路や用排水の安定的な確保のため、基盤整備の実施に向けた取組が必要である。
② 農薬ドリフト防止対策に関する課題	農薬のドリフト防止のため、地域としてまとまった対策が必要である。
③ 労働力不足に関する課題	パート等の確保が難しく労働力不足の解消が必要である。

## 3. 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

当該地域の農地利用は、本プランに中心経営体として位置づけられた経営体が担い、認定農業者や認定新規就農者の受入を促進することにより対応していくほか、関係機関との連携し、基盤整備の実施を検討しながら、中心経営体への農地集積を図っていく。

## 4. 今後の地域農業のあり方（3の方針を実現するために必要な取組に関する方針）

関係機関と連携し、基盤整備の実施を検討しながら、認定農業者の機械設備の高度化、農道や用水井戸等のインフラ整備を図り、生産性の向上及び低コスト化とともに、一層の農地の集積を図る。米やりんごに次ぐ新たな作物として施設野菜の導入により高収益農業の推進を図るほか、農薬のドリフト防止のため、関係機関と連携するとともに地域でのコミュニケーションを活発に行い、野菜とりんごの住み分けを図る。また、パート等の労働力募集を行うとともに、就農希望者の掘り起こしを行いながら新規就農の受入れを促進し、若い世代の中心経営体の確保を図る。

## 5. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○経営体数	96経営体
法人	2経営体
個人	94経営体
集落営農（任意組織）	0組織